

国立大学法人鹿児島大学 大学院理工学研究科  
グローバル人材育成支援室  
鹿児島市郡元1-21-40 〒890-0065

令和3年3月31日  
March 31 2021

Kagoshima University  
Graduate School of Science & Engineering  
Global Development Office  
Korimoto 1-21-40, Kagoshima City P.O. 890-0065



Reminder: Meeting 10:45

Wednesday March 31  
8:45

Screen Time

Day	Screen Time (hours)
月 (Monday)	7
火 (Tuesday)	5
水 (Wednesday)	9
木 (Thursday)	6

Continue reading?

鹿児島大学 大学院理工学研究科  
グローバル人材育成支援室活動報告書  
Global Development Office Annual Report  
Kagoshima University Graduate School of Science & Engineering





鹿児島大学 大学院理工学研究科

グローバル人材育成支援室

令和2年度活動報告書

Global Development Office

2020 Annual Report

令和3年4月1日

鹿児島大学大学院 理工学研究科

グローバル人材育成支援室

Global Development Office (GDO) ミッション: 鹿児島大学理工学研究科の学生と教員をグローバル人材にするための支援。

## 1. 海外研修の企画を運営する

### 2. 海外研修支援

理工学研究科の海外研修支援（準備など）、個人的な海外研修の相談（ビザ、生活など）、教員と学生係に留学生サポート

### 3. ランゲージサポート

英語学習サポート、英語ワークショップなど、理工系英語論文の校閲・発表支援、理工学研究科内の国際交流支援

GDO メンバー：

室長：新留 康郎 教授

副室長：木方 十根 教授

室員：Bo Causer 特任助教・橘まき 特任専門員

## 目次:

1. 支援室活動内容	p. 1
2. 支援室における会議実施状況	p. 2
3. 2020 年度 事業費報告	p. 3
4. 研修費用および参加学生のための支援金	p. 3
5. GOES 参加学生 終了後の進路・GOES Alumni Information	p. 4
6. GOES 海外研修	p. 5
7. GOES Home 2020 – 理工系国際コミュニケーション特別研修	p. 6
CELT 授業参加後 アンケート（結果）	p. 7
English Camp 参加後 アンケート（結果）	p. 11
8. GOES Home 特別研修 Administration	p. 12
9. Global Professional Week 2020	p. 14
10. TOEIC	p. 17
11. English Language Support for Global Communication	p. 20
12. 室員感想文集	p. 21

## はじめに

この冊子は鹿児島大学大学院理工学研究科グローバル人材育成支援室（以下、支援室）が令和2年度に行った活動の報告です。本冊子が、大学として大学院生に提供すべきグローバル教育プログラムとは何か、また、鹿児島大学の大学院生・教員・職員がグローバル化のために学ぶべきことは何かを考えるきっかけになれば幸いです。

支援室は平成26年度に開設された設置準備室をもとに平成27年度より設置され、本年度で6年目にあたります。本年度の支援室は、特任助教(Bo Causer)と特任専門員(橋)の2名が実務の多くを担当し、副支援室長（木方教授）と支援室長（新留）で運営されました。本年度も、本間理工学研究科長に加え理工学研究科職員の皆様の協力をいただき円滑に業務を実施することができました。関係各位のご尽力に心より御礼を申し上げます。

本年度の「大学院理工系イノベーションプログラム海外研修」はコロナ禍のために実施できませんでした。代替プログラムとして「大学院理工系イノベーションプログラム特別研修」（以下、GOES HOMEプログラム）を遠隔にて実施しました。GOES HOMEプログラム実施に際しては、進取の精神基金より講習費用に対して支援金をいただきました。支援金に関わる鹿児島大学グローバルセンターのご尽力に心より感謝申し上げます。

学生の成果は学生自身が作成したホームページとして公開されておりますので、支援室のホームページからご参照ください。遠隔研修であっても、6週間にわたる集中的な英語による研修は学生諸君の能力を大きく向上させることができました。今後は、遠隔研修についてもその質と量の両面で向上させなければいけないと考えます。

支援室は、コロナ禍にあっても鹿児島大学の学生にグローバル化：世界につながって日々の生活を営むということへの理解を深める機会を幅広く提供したいと考えています。支援室のより良い活動の為に今後一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年3月

理工学研究科グローバル人材育成支援室

室長 教授 新留 康郎

## 1. 支援室活動内容

4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME 2020 プログラム企画立案</li> <li>・ 理工系グローバル人材育成のためのアカデミックイングリッシュ (Q1期)</li> </ul>
5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME 2020 実施準備</li> <li>・ 海外研修支援金 (本学ならびに JASSO) 手続き</li> <li>・ 理工系グローバル人材育成のためのアカデミックイングリッシュ (Q1期)</li> <li>・ グローバル定例会</li> </ul>
6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME 2020 受付開始</li> <li>・ GOES HOME 2020 説明会</li> <li>・ 理工系グローバル人材育成のためのアカデミックイングリッシュ (Q1期)</li> <li>・ グローバル定例会</li> </ul>
7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME 2020 実施準備</li> <li>・ GOES HOME 2020 参加者第1回 TOEIC 実施 (Listening &amp; Reading IP テスト)</li> <li>・ グローバル定例会議</li> </ul>
8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME 2020(8/17-9/18)朝礼実施</li> <li>・ グローバル月例会議実施</li> <li>・ English Camp 実施準備</li> <li>・ グローバル定例会</li> </ul>
9 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GOES HOME2020(8/17-9/18)朝礼実施</li> <li>・ English Camp 2020 説明会</li> <li>・ English Camp 2020 (9/23-9/27) 実施</li> <li>・ English Camp 2020 事後指導</li> <li>・ 2021年度海外留学支援制度・JASSO (協定派遣) プログラム申請</li> <li>・ グローバル月例会議実施</li> <li>・ GOES HOME 2020 参加者第2回 TOEIC 実施 (Listening &amp; Reading IP テスト)</li> <li>・ 令和元年度事業実施報告書 配布</li> </ul>
10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ English Camp 2020 成果物フォローアップ</li> <li>・ Global Professional Week 2020 実施準備</li> <li>・ グローバル定例会議実施</li> <li>・ English Workshop 実施</li> </ul>

11 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Global Professional Week (11/24-11/27) 実施</li> <li>・ GOES HOME 2020 参加学生報告会開催(11/25)</li> <li>・ GOES HOME 2020 参加者第3回 TOEIC 実施 (Listening &amp; Reading IP テスト)</li> <li>・ 本学海外研修支援事業プログラム申請</li> <li>・ グローバル定例会議実施</li> </ul>
12 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバル人材育成支援室 ホームページ更新</li> <li>・ 2021 年度進取の精神基金申請</li> <li>・ グローバル定例会議実施</li> </ul>
1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバル定例会議実施</li> <li>・ GOES HOME 2021 プログラム企画立案</li> </ul>
2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバル定例会議実施</li> <li>・ 事業実施報告書作成</li> </ul>
3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバル定例会議実施</li> <li>・ 事業実施報告書作成</li> <li>・ GOES HOME 2021 説明会準備</li> </ul>

## 2. 支援室における会議実施状況

業務の円滑な進行と適切な運営のため、以下 2 種類の会議を実施した。

### 1. グローバル人材育成支援室月例会議

主席者：室長、副室長、特任助教、特任専門員

主な内容：業務進捗報告、事業実施における重要事項の議論・確認

開催日時：9/9, 9/15

### 2. グローバル人材育成支援室定例会議

出席者：室長、特任助教、特任専門員

主な内容：業務進捗報告、イベント実施計画や学生募集の戦略について討議

開催回数：24 回+2/19 以降

### 3. 2020 年度 事業費報告

費用	詳細	予算金額	執行額
消耗品	文具、事務用品	30,000	58,322
印刷	パンフ・チラシ	100,000	2,740
	コピー機使用料		12,000
	文集作成・印刷		0
	事業実施報告書印刷		70,000
プログラム	TOEIC IP テスト	220,000	106,810
	English Camp		29,581
	Global Professional Week		8,000
オンライン環境整備			26,976
合計		350,000	314,429

### 4. 研修費用および参加学生のための支援金

2020 年度海外研修 GOES プログラムはオンラインで開催され、研修費用と参加学生対象の支援金は次の通りである。

#### GOES HOME オンライン研修費用

パース研修

語学学校授業料（諸経費込み）	150,000×11 名
ホームステイ費用, 渡航費, 入国ビザ申請費, 海外旅行傷害保険	なし
合計	1,650,000

#### 支援金

支援金は以下について申請し次の通り承認された。条件を満たした学生が支援金を利用した。

##### ① 鹿児島大学学生海外研修支援事業（タイプ B）

- ・ 授業科目名：理工系国際コミュニケーション海外研修
- ・ 採択支援学生数：15 名
- ・ 受給人数：11 名

##### ② 独立行政法人日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣タイプ B）

- ・ プログラム名：大学院理工系イノベーション海外研修プログラム
- ・ 奨学金支給割当人数：30 名
- ・ 受給人数：0 名

なお、2020 年度はコロナ禍により学生を海外に派遣しなかったため、支援金②については変更届を提出し、利用しなかった。



## 5. GOES 参加学生 終了後の進路・GOES Alumni Information

	研修先	専攻	進路
2015年度参加			
1	サンノゼ	機械工学	三浦工業株式会社
2		化学生命・化学工学	栗田工業株式会社
3		情報システム工学	ヤフー株式会社
4		情報システム工学	双日株式会社
5	サンディエゴ	情報システム工学	株式会社村田製作所
6		建築学	株式会社アール・アイ・イー
7		建築学	株式会社スペース
8		建築学	大和ハウス工業株式会社
9		生命化学	グローバル・ウェーハズジャパン株式会社
10	サンディエゴ・サンノゼ	機械工学	トヨタ自動車九州株式会社
11		機械工学	トヨタ自動車九州株式会社
12		情報システム工学	三菱自動車工業株式会社
13		物理・宇宙	新日鐵住金株式会社
2016年度参加			
1	サンディエゴ・サンノゼ	化学生命・化学工学	東レエンジニアリング株式会社
2		海洋土木工学	JX金属株式会社
3		海洋土木工学	株式会社建設技術研究所
4		生命化学	株式会社リニカル
5		生命化学	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
6		生命化学	池田糖化工業株式会社
7		機械工学	大分キャノン株式会社
8		機械工学	日産車体株式会社
9	サンディエゴ	地球環境科学	NECソリューションイノベーター株式会社
10		海洋土木工学	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
11		建築学	株式会社大林組
12	ニューヨーク	機械工学	株式会社ATOUN
13		機械工学	NOK株式会社
14		建築学	株式会社日建設計
15	ノースダコタ	建築学	株式会社南日本放送
16		化学生命・化学工学	株式会社日本触媒
2017年度参加			
1	サンディエゴ	建築学	N/A
2		建築学	株式会社JFE設計
3		生命化学	一般財団法人カケンテストセンター
4		機械工学	株式会社牧野フライス製作所
5		機械工学	ファナック株式会社
6		機械工学	N/A
7		化学生命・化学工学	明成化学工業株式会社
8		物理・宇宙	株式会社キーエンス
9	ニューヨーク	化学生命・化学工学	三井化学株式会社
10	サンノゼ	機械工学	トヨタ自動車九州株式会社
11		機械工学	ヤンマーホールディングス株式会社
2018年度参加			
1	サンディエゴ	機械工学	鹿児島大学大学院理工学研究科博士後期課程
2		化学生命・化学工学	大正製薬株式会社
3		化学生命・化学工学	住友電気工業株式会社
4		物理・宇宙	株式会社キーエンス
5		物理・宇宙	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
6	オーストラリア・パース	物理・宇宙	進学準備中
7	ハワイ	電子電気工学	キャノンメディカルシステムズ株式会社

	研修先	専攻	進路
2019年度参加			
1	サンディエゴ オーストラリア・ パース	情報生体システム工学	タイガー魔法瓶株式会社
2		電気電子工学	ソニーLSIデザイン株式会社
3		化学生命・化学工学	株式会社新日本科学
4		建築学	株式会社傳設計
5		情報生体システム工学	ソフトバンク株式会社
6		化学生命・化学工学	本州化学工業株式会社
7		機械工学	シュルンベルジェ株式会社
8		生命化学	株式会社新日本科学PPD
9		数理情報科学	株式会社日本技術センター
10		人文社会科学研究科法学	N/A
11		情報生体システム工学	N/A

## 6. GOES 海外研修

### GOES in 2020

From early 2020, the Corona Virus pandemic resulted in an almost complete shutdown of international travel. Borders closed in Australia, our main study abroad destination, and great uncertainty disrupted older connections in California. Further internal decisions against sending students overseas resulted in the full cancellation of the program for 2020. However, we still hoped to provide our students with an opportunity for international exchange.

Our partner in Perth, University of Western Australia Center for English Language Teaching (UWA CELT), had quickly pivoted to online education, and was able to offer our students the possibility of a fully online exchange. In order to take advantage of this opportunity, we also acted quickly to develop the GOES Home program. This program would have two parts: a 5-week intensive online study program with UWA CELT, and a one-week English camp. This new program is described in detail below.

## 7. GOES Home 2020 – 理工系国際コミュニケーション特別研修

### Part 1: Online English lessons with UWA CELT

Initially our students were to join regular online classes at CELT with other international students, however, due to the pandemic, only people who were highly motivated to enter UWA as regular students enrolled in CELT lessons. The English level of these students was far above that of most of our students. CELT made the decision to hold a special class for KU students that focused on building their basic language skills, through education centering on Australian culture. Opportunities for language exchange with students attending CELT in person were also incorporated into the custom program. Two KU students who scored well on the CELT placement test were offered the chance to join regular classes, and one of these students chose to do so.

With online classes starting at 9:30am JST, and with students joining from their homes, it was decided that our office would hold a morning chou-ri Zoom meeting at 9:00 to ensure that students were ready for their day, and to discuss any problems with the CELT class. Chou-ri proceeded for five weeks without incident, and the students remained motivated and enthusiastic about their CELT classes.

The CELT classes were mainly conducted using Zoom, and assignment content was delivered through the CELT VLE (Virtual Learning Environment), Schoology.

### CELT Online 5 week schedule

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
Aug. 17 – 21 9:30 – 13:45	<b>1. General English:</b> grammar, listening, speaking <b>2. Custom Program:</b> Aboriginal history & culture (reading/speaking)	<b>1. General English:</b> grammar, vocabulary <b>2. Custom Program:</b> Academic Skills (listening/speaking/ vocabulary)	<b>1. General English:</b> reading, listening, writing <b>2. Custom Program:</b> Aboriginal storytelling (listening/speaking) <b>3. Optional:</b> online exchange with Chinese students*	<b>1. General English:</b> grammar, reading, vocabulary <b>2. Custom Program:</b> Famous Australians (reading/speaking)	<b>1. General English:</b> writing, listening, speaking <b>2. Custom Program:</b> CELT language exchange (Brazil, Thailand, Colombia, Taiwan, & Australian staff)
Aug. 24 – 28 9:30 – 13:45	<b>1. General English:</b> grammar, listening, speaking <b>2. Custom Program:</b> Virtual tour of Perth (listening/speaking)	<b>1. General English:</b> grammar, vocabulary <b>2. Custom Program:</b> Academic Skills (listening/speaking/ vocabulary)	<b>1. General English:</b> reading, listening, writing <b>2. Custom Program:</b> Uluru & Rottnest (listening/speaking), CELT student language exchange	<b>1. General English:</b> grammar, reading, vocabulary <b>2. Custom Program:</b> Comparing Kagoshima & Perth (listening /speaking) <b>3. Optional:</b> online exchange with Chinese students*	<b>1. General English:</b> writing, listening, speaking <b>2. Custom Program:</b> CELT language exchange: UWA Japan Society members; CELT students & staff)
Aug. 31 - Sept. 4 9:30 – 13:45	<b>1. General English:</b> grammar, listening, speaking <b>2. Custom Program:</b> Aussie Beach Culture (listening/speaking)	<b>1. General English:</b> grammar, vocabulary, <b>2. Custom Program:</b> Academic Skills (listening/speaking/ vocabulary) <b>3. Optional:</b> online exchange with Chinese students*	<b>1. General English:</b> reading, listening, writing <b>2. Custom Program:</b> Australia, Happy Country (listening/speaking), CELT student language exchange	<b>1. General English:</b> grammar, reading, vocabulary <b>2. Custom Program:</b> Comparing Japan & Australia (listening /speaking)	<b>1. General English:</b> writing, listening, speaking <b>2. Custom Program:</b> CELT language exchange (Brazil, Thailand, Colombia, Taiwan, & Australian staff)
Sept. 7 – 11 9:30 – 13:45	<b>1. General English:</b> grammar, listening, speaking <b>2. Custom Program:</b> School of the Air (listening/speaking)	<b>1. General English:</b> grammar, vocabulary, <b>2. Custom Program:</b> Academic Skills (listening/speaking/ vocabulary) <b>3. Optional:</b> online exchange with Chinese students*	<b>1. General English:</b> reading, listening, writing <b>2. Custom Program:</b> Indigenous Languages (listening/speaking), CELT student language exchange	<b>1. General English:</b> grammar, vocabulary <b>2. Custom Program:</b> Academic Skills (listening/speaking/ vocabulary)	<b>1. General English:</b> writing, listening, speaking <b>2. Custom Program:</b> CELT language exchange (Brazil, Thailand, Colombia, Taiwan, & Australian staff)
Sept. 14 – 18 9:30 – 13:45	<b>1. General English:</b> grammar, listening, speaking <b>2. Custom Program:</b> Aussie Products & Food (listening/speaking), damper bread workshop	<b>1. General English:</b> grammar, vocabulary <b>2. Custom Program:</b> Academic Skills (listening/speaking/ vocabulary) <b>3. Optional:</b> online exchange with Chinese students*	<b>1. General English:</b> reading, listening, writing <b>2. Custom Program:</b> Australian food culture (listening/speaking), CELT student language exchange	<b>1. General English:</b> grammar, vocabulary <b>2. Custom Program:</b> Academic Skills (listening/speaking/ vocabulary)	<b>1. General English:</b> writing, listening, speaking <b>2. Custom Program:</b> CELT language exchange (Brazil, Thailand, Colombia, Taiwan, & Australian staff)

\*from 14:30 – 15:30

## CELT 英語授業 参加後 アンケート (結果)

1. 期間 (5週間) はいかがでしたか? 良い: 11名 短い: 1名
2. 頻度 (5日/週) はいかがでしたか? 良い: 12名
3. 頻度 (5日/週) はいかがでしたか? 良い: 11名 長い: 1名
4. 授業の内容はいかがでしたか? (複数回答可) 面白かった 10名、普通だった 3名、使えそうだった 6名
5. 私の英語は伸びたと思いますか? はい: 12名
6. 特に何が伸びたと思いますか。(複数回答可) Writing: 1名、Reading: 1名、Listening: 7名、Speaking: 9名。
7. 後輩へ CELT のオンライン授業を勧めますか? はい: 12名
8. 上記回答 (はい・いいえ) の理由をご記入ください。
  - a) オンラインで英語が学べ、いろんな国の人とコミュニケーションが取れるから。
  - b) 授業の中で、実践的に英語を話す機会が多く、集中的に学ぶことができるから。
  - c) 日本の授業では中々身に付けることが出来ない Speaking が学べるから。
  - d) speaking を練習できる良い機会だと思ったからです。
  - e) スピーキングが出来る貴重な機会であると思ったから。
  - f) 英語力向上に大変役に立つと感じたから。
  - g) 研究と英語の勉強を両立出来るため。
  - h) オンラインでいい授業を受けられる。
  - i) スピーキング力がつく。
9. CELT の先生はいかがでしたか?
  - a) 面白い方たちでした、丁寧に教えてくださいました。
  - b) 難しい所は分かり易く説明してくれ、かつ発言する機会をたくさん与えてくれたので、良かったと思う。
  - c) ユニークでとても良い先生でした。ただ、先生は毎回同じ方が良かったです。
  - d) 発言を促すような雰囲気作りをしていてとても親しみやすかったです。
  - e) 全員とても優しく、分からないことはしっかりと教えてくださった。
  - f) とても面白く、人柄もとても好きで、素晴らしかったです。
  - g) 分かりやすく、丁寧に教えてくれる先生でした。

h) 親しみやすい、良い先生でした。

i) 分かりやすくて良かった。

10. 授業に対し満足した点・改善して欲しい点等ご記入ください。

a) 会話をする機会がほとんどでとても良かったです、一方でリスニングや動画を観るとき音が出ないなど機械的な問題は改善すべき点だと思います。

b) 様々な国籍の生徒と交流する場を設けてくれた点は満足したが、オンラインであったため、通信状況によってスムーズに対話できない時や空気感をつかむことが難しかった点が残念だと感じた。

c) 基本、全てにおいて満足した。クラスを他の国の人たちも混ぜてくれるとさらに良くなると感じた。

d) 1日ごとにトピックが決まっており、取り組みやすかった。

e) 発音の練習ツールなどがあれば更に良いなと思いました。

f) もう少し、発音練習する授業があれば更に良いと思った。

g) 先生がパソコンに慣れていて、とてもスムーズでした。

h) 先生ごとに授業の進め方が違うことに戸惑いました。

11. 来年度も CELT 授業を行う場合、来年度の参加学生への助言をご記入ください。

a) 授業以外の時間でリスニングや発音などの練習をしたらより効果的だと思います。

b) 時間は制限されるのでしっかり管理できるなら！アルバイトのお金で生活してる人はオンラインとバイトで5週間終わるからハードスケジュールではあると思います。

c) 最初の方は緊張して発言することにためらうかもしれませんが、積極的に発言し会話をする事で、確実に英語力は向上します。

d) 慣れることが大切なので、恐れず積極的に参加する姿勢を持つと良いと思う。

e) 時間的に拘束されるが英語力を伸ばすいい機会になります

f) 会話を練習できる貴重な機会を得られる授業です。

g) 英語力に加え発言力もの向上も図れると感じた。

h) 積極的に発言することをおすすめします。

i) 積極的に発言していきましょう。

12. 来年度も CELT 授業を行う場合、来年度の先生に、改善して欲しいこと、期待すること等  
ご記入ください。

- a) 機械的問題は改善してもらいたいです。また楽しい授業だったので来年もそう  
だといいです。
- b) 海外の学生と話すことが出来る追加のアクティビティは初めに説明がなかったので、  
スケジュールが合いませんでした。初めから教えていただければ有り難いです。
- c) 一対一でスピーキング練習できる機会が更にあれば良いと思った。
- d) 特にないです、今回のような素晴らしい授業を期待します。
- e) 他国の学生と話す機会をもう少し増やすと良いと感じた。

### Part 2: English Camp

According to MEXT recommendations, credit cannot be awarded for courses that are outsourced, unless some portion of instruction is taken by the awarding institution. As a result, it was necessary to have a local portion to the GOES Home program. We decided to hold a week-long English Camp after the CELT program ended. This camp had several aims:

1. For students to be able to apply the English they had learned online at CELT,
2. To help students deepen their awareness of the digital skills they were building through participating in online lessons, and to develop their understanding of authorship in online settings,
3. To contribute to Regional Development through the Kagoshima-Perth Sister City relationship.

Since it was unclear whether we would be able to hold the camp face-to-face, or whether it would need to be held online, we prepared activities that could be adapted to either situation. By early September it was possible to hold a socially-distanced camp on campus. We used a large lecture room, and arranged the tables into three teams of four students, with chairs spaced well apart, and a large central meeting circle for short all-team gatherings. Alcohol spray and wipes were available, students and staff wore masks at all times, and each student was given a plastic face shield, should they want to use it. Windows were kept open. Camp handbooks were made to communicate the content and aims of the week.

#### *Central activity of the camp:*

Students build an English-language website to share information about Kagoshima, particularly with any visitors from Perth. The topic for the site is chosen by the students, first by choosing an SDG. The website is required to present information

that is a) is currently unavailable in English, b) is related to STEM, and c) promotes the relationship between the two sister-cities. All content must be original.

#### *Website Production:*

Students are divided into 3 teams: web designers, researchers, and graphics.

- Web designers are given training (in English) on how to build a website using the campus-supported Wordpress platform. They ensure that the other teams produce content which can be presented on the site by deciding what pages, headings and sub-sections are needed.
- Researchers seek information on the decided topics, and write short English summaries for each section. They share these with the graphics team. They also keep track of which resources they used to produce their content, so that it can be referenced.
- The graphics team works with the web design and research teams to determine what kind of graphics are needed, and take necessary photos or draw illustrations and graphs to support the information on the website.

All negotiation between the teams must be done in English.

#### *Results:*

GOES Home 2020 students produced the following website:  
<https://goesgakusei.eng.kagoshima-u.ac.jp/>

The camp was held for five days, for 7 hours a day, during which students spoke no Japanese, despite the fact that there was a ticket system in place which allowed them to speak Japanese when necessary. We also had scheduled break times throughout the day, however, students were so focused on the task, and so motivated to complete it, that they worked straight through breaks. At the end of the week each team presented the work they'd produced, in English.

Other activities: Other camp activities included games, silent reading time, and learning a famous comedy routine (Abbot & Costello's "Who's on First?") which students performed in pairs at the end of camp.

In the end, the students achieved the aims of the camp, to an unexpected degree.

## English Camp 参加後 アンケート (結果)

1. 期間 (5 日間) はいかがでしたか? 良い: 8 名 短い: 2 名
2. 時間 (7 時間) はいかがでしたか? 良い: 8 名 長い: 2 名
3. 授業内容 (全体) はいかがでしたか? (複数回答可) 面白かった 7 名、  
やりがいがあった 3 名
4. 課題 (Web サイト構築) はいかがでしたか? (複数回答可) 面白かった 5 名、  
やりがいがあった 5 名
5. 私は。。。 (複数回答可) 前より英語が好きになった。 4 名、前より英語が話す  
ことに抵抗がなくなりました。4 名、海外に行きたくなりました。2 名
6. 後輩へイングリッシュキャンプへの参加を勧めますか? はい: 8 名 いいえ: 2 名
7. 上記回答 (はい・いいえ) の理由は?
  - a) 研究とのバランスを考えた上で決定した方がいいと思うから。(2 名)
  - b) 英語を話す自身に繋がるから
  - c) シンプルに楽しかったから
  - d) オンラインで学んだ英語をホームページ作りなどで生かせるから
  - e) 5 週間はオンライン授業でメンバーと直接会う機会がなかったが、English Camp  
でたくさんの人とコミュニケーションをとることができたから。
  - f) 有意義な夏休みを過ごせる
  - g) 視野が広がる
  - h) 英語を用いたディスカッションの練習にもなるため
  - i) 英語力向上を期待でき、新たな友人と出会うことができるから
8. 授業に対し満足した点・改善して欲しい点等ご記入ください。
  - a) English Camp のどのプログラムも面白かったが、特にウェブサイト作りが達成感  
もあり、メンバーと協力して作り上げる良い経験になって良かった。
  - b) ウェブサイトを作るというのはとても面白い内容でしたが、英語を喋る機会はそこ  
までたくさんではなかったような気がしています。
  - c) ずっとワークだけでなく、ゲームや漫才を通して英語を学べた点はとても良かった。  
あと、シール制も良かった。



- d) 英語を話すことで、みんなで一つのものを完成させることが出来て、  
良い経験になった。
  - e) 会話は英語のみというルールが良かった。
  - f) 発音練習も出来ると良いと思った。
9. 来年度のイングリッシュキャンプに参加する学生へアドバイスをご記入ください。
- a) 初めは英語が伝わるか、話せるか不安だったけど、楽しく有意義な1週間でした。  
恐れず、楽しむことが大切だと思います。
  - b) 英語に対する抵抗が無くなると思うので、是非参加して欲しいです。
  - c) 自ら進んで発言し、行動すれば確実に英語力は向上します。
  - d) 貴重な体験でこれからの視野が広がると思います。
  - e) 失敗を恐れずに発言する事が大事だと思う。

## 8. GOES Home Administration

### Preliminary preparations

Since students were not traveling, it was not necessary to recruit in advance, however, the course was added after the course selection period began, so it was necessary to raise awareness about the existence of the course. Although posters were made (see facing page), most students were still not on campus, or passing through quickly without lingering. E-mails were sent to all graduate students informing them about the course with links to our website. Fortunately we were able to secure funding from the Spirit of Enterprise Fund, for the cost of CELT tuition for 15 students, who were able to join at no extra cost. CELT had hoped for 15 students in order to hold the custom program, and requested a 10-student minimum. We were able to recruit 13 students, although two dropped out due to internship schedule conflict.

An MOU is held between CELT and Kagoshima University, meaning that CELT does not differentiate between our students when they come from different faculties or programs. Dr. Unedaya was also running a program for students to study at CELT during the same period as the GOES Home students, so we cooperated within Kagoshima University, and our office processed all the applications for students taking the CELT course, regardless of their affiliation. This brought the total number of students enrolled at CELT to 12.



理工系国際コミュニケーション海外研修科目6週間代替プログラム!

国内研修

第1部

西オーストラリア大学附属語学学校 CELT オンライン海外研修に参加しませんか?

- CELT 在籍英語教育専門指導教員による楽しく充実した授業を提供します。
- 他の国の学生と交流ができます。
- 短期間で、英語の使い方が学べます。

8月17日～9月18日 CELT 語学学校 5週間日付 (オンライン授業)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:30 - 11:30	英語単語	英文法	実践・英文読解	総合・会話	総合・読書
11:45 - 13:45	聴く・理解	英会話	実践・英作文	総合・読書	総合・会話
14:00 ~	選択 オンライン イベント・宿題時間 (参加自由)				

※ 授業料には「進取の精神基金支援金」が支給されます(自己負担額未定)

第2部

鹿児島大学 グローバル イングリッシュ キャンプ

9月23日～9月27日1週間 (CEL T オンライン研修の後)



1日の例	
10:00 - 12:00	地域貢献プロジェクト準備
昼	弁当と英会話
13:00 - 14:00	英語能力パワーアップタイム
14:15 - 17:00	地域貢献プロジェクト活動
17:00 - 17:30	地域貢献プロジェクト報告ゼミ

参加希望者は理工学研究科グローバル人材育成支援室のウェブサイトでご申し込みをご覧ください。

大学内で  
行う予定  
参加費無料

※希望者が15名を超えた場合には、選抜を行います。

鹿児島大学理工学研究科グローバル人材育成支援室 : 099-285-7689 globaljinzai@gm.kagoshima-u.ac.jp

In previous years where students travel overseas, extensive preliminary preparation is required. Although the preparation was much reduced with students not traveling, it was still necessary for them to complete supervised online placement tests, so we had them come individually to the GDO office to complete the tests. We also held a very socially distanced TOEIC test (12 students in a 150 person lecture room) to establish a baseline for their English level.

### Follow-up

After the CELT course and English Camp were over, students were once again given the TOEIC test to establish their improvement in English. This is discussed in detail on page 13. They were also given the opportunity to share their experience with other students, during Global Professional Week (this page). Their contribution to support the Spirit of Enterprise aims of helping local industry were considered to be fulfilled through the development of their website.

## 9. Global Professional Week

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、令和2年度のGlobal Professional Weekはオンラインで実施しました。室員にとって初めてオンラインイベントの実施であったため、構成を端的にし、グローバル人材育成支援室とコトづくりセンターとの共催で開催することにした。参加募集は学内メールとチラシ・ポスター（p. 15）で行い、以下のとおり多様な内容を用意した。

- 1) 研究インターンシップウェブ報告会&座談会
- 2) GOES Home 2020 参加者報告と交流会
- 3) 海外研修と特別研修説明会
- 4) オンライン英会話
- 5) 海外活動&キャリアデザイン講演会

# Global Professional Week 2020 - Online

11月24日～11月27日

11月24日 **火**

10:30-12:30 研究インターンシップweb情報会&座談会  
16:00-17:00 グローバル英会話

11月25日 **水**

10:30-11:30 海外研修&特別研修web説明会  
13:00-14:00 GOES参加者web交流会  
16:00-17:00 オンライン英会話

11月26日 **木**

13:00-14:00 海外研修&特別研修web説明会  
16:00-17:00 オンライン英会話

11月27日 **金**

10:30-11:30 海外研修&特別研修web説明会  
14:00-15:00 海外活動&キャリアデザイン講演会  
16:00-17:00 オンライン英会話

## 11月27日(金) 海外活動&キャリアデザイン講演会

海外で活躍する先輩に話を聞こう!



講師：富田 淳也氏

大学生の頃よりバックパッカーとしてインド、タイ、ネパールを中心に放浪。その後青年海外協力隊でマラウイ共和国に野菜栽培指導として赴任。マラウイの伝統農法「チクワザ農法」に興味を持ち、帰国後、東京農工大学大学院で伝統農法の研究をする。また、在学中に国際農林業協同協会 (IICAF) の専門家資格を取得する等、国際的な農業の専門家として知見を有する。現在は日置市で農家を営む傍ら動物病院を夫婦で経営している。



11/24 (火) AM10:30～12:30

Global Professional Week 2020

## 研究インターンシップ

## web 報告会&座談会

開催方法：オンライン (Zoom)

対象：博士、修士、学部生

### 当日の流れ

- 10:30～ 開会
  - 10:35～10:45 鹿大のインターンシップについて
  - 10:45～11:00 一般社団法人 産学協働/パートナー人材育成協議会 事業紹介
  - 11:00～11:15 鹿児島市観光交流局 課題解決型インターンシップについて
  - 11:15～11:30 研究インターンシップ経験談 機械工学 学生 (M2)
  - 11:30～11:45 受入企業 (住友電気工業)
  - 11:45～11:55 質疑応答
  - 12:05～12:30 座談会 (経験者との本音トーク)
- ※座談会のみ参加もOKです (要申込)  
※当日の流れは変更になる場合があります。

研究の「カブ」に興味のある方はどなたでも参加OK♪

研究の「カブ」って何？に答えます

実際に参加した先輩に直接話を聞くチャンス♪

企業が学生に期待することなどが聞けます♪

詳しい情報・申し込みはHPをご覧ください！



鹿児島大学  
理工学研究科  
グローバル人材育成支援室と  
地域コトづくりセンター共催  
099-285-7689 (橘)  
globaljinzai@gm.kagoshima-u.ac.jp

## 研究インターンシップウェブ報告会&座談会

地域コトづくりセンターからの発表として、「研究インターンシップ Web 報告会&座談会」をオンライン形式にて実施。新大学院生の参加も呼びかけ、参加者は 206 名であった。イベントでは、地域コトづくりセンターの役割や、研究インターンシップの流れについての事業説明や、研究インターンシップ経験者の報告として、機械工学・博士前期課程 2 年（実施時）の学生より、住友電気工業株式会社での経験談を報告。研究のテーマや、インターンシップ生として企業で働くことにより得られた気づきや、その後の学生生活への影響など、経験者ならではの報告がなされた。続く受け入れ企業である住友電気工業株式会社からは、当時の受入担当者による評価や、大学生に期待することなど、在學生にとっても興味深い発表を頂いた。自由形式での座談会には 10 名程度が参加。学生同士での気軽な雰囲気の中で、ざっくばらんな意見交換が行われた。

## 海外研修と特別研修説明会

新型コロナ時代をむかえ、海外研修の実施には課題があったものの、できるだけ学生の希望に沿った研修を企画するため、ZOOM での説明会を実施し、学生との意見交換の場を設けた。また、事前に説明ビデオを作成し、ビデオを活用することで効率的な説明会を実施することができた。

<https://drive.google.com/file/d/147oEaYrtoMRccQ6XKo1GLS-KG3t1D8xD/view>

説明会は全 3 回行われ、参加者は 67 名であった。各会、ビデオ説明と質疑応答を実施し、説明会后、ビデオをウェブに掲載することで、当日参加できなかった学生も説明会ビデオを視聴できるようにした。

## GOES Home 2020 参加者報告と交流会

海外研修は中止となったが、国際コミュニケーション特別研修の経験談を後輩に伝えてもらうため、GOES Home 2020 参加学生と交流会を ZOOM で実施。GOES 参加学生は 7 名、一般参加学生は 5 名であった。ZOOM 交流会を録音し、学生の経験に基づいたわかりやすい説明をピックアップし、グローバル人材育成支援室のウェブサイトに掲載した。

## オンライン英会話

新型コロナウイルスの感染拡大により、English Workshop をしばらく実施していなかったが、今年度の English Workshop は ZOOM を活用し、Global Professional Week 中に実施した。初日の参加学生は 5 名であったが、毎回参加した学生は一人で、最終日の参加学生は 2 名で

あった。今回のオンライン英会話の実施により、ZOOM で実施される English Workshop のような非公式な教育について、いくつかの課題が明らかとなった。特に、学生からの発言の少なさが課題で、教師だけが発言するクラスはビデオ配信でも可能であり、相互コミュニケーションが重要なワークショップ形式のクラスには工夫が必要であることが明らかになった。対面式の授業では、ゲームや道具を使い、自然に会話を促すことが可能だが、ZOOM ではそれらの道具を活用することが難しかったため、対面式の英会話の時間に比べ、ZOOM の方が時間が長く感じるという感想があった。オンラインの浸透により、無料で自由に参加できる英語教育は無数に存在し、プロ英会話 vlogger と比較して、当室の English Workshop には改善すべき点があり、令和3年度の English Workshop においても、有効な手段を再考する必要があると感じた。

#### 海外活動&キャリアデザイン講演会

海外経験豊富な講師を招き、海外経験を通じたキャリアの構築について発表された。農業専門家として国際的な知見を有し、青年海外協力隊や大学院でのアフリカ経験を通じ、国際社会で活躍するために身につけるべきスキルなどが紹介された。参加者は 22 名で、富田氏の現場経験に基づく発表内容に多くの質問が寄せられた。

## 10. TOEIC

### Introduction

Since the GOES overseas programs began, the TOEIC test has been used as an objective measuring device to determine the improvement of language skills in students. Problems of reliability and validity of the TOEIC test are well documented (Cunningham 2002, Takahashi 2012, Nicholas 2015, Im 2019), despite efforts by the TOEIC provider ETS to dominate academic discourse by publishing papers promoting the test. Nonetheless, it is a very practical test, in that it is easy to conduct and is graded externally. It is also widely used and accepted, which gives it social validity. It has therefore been used for partial evaluation of the GOES program in order to award credit, and other tools including a written blog, and oral presentations are also used to evaluate student language ability. TOEIC scores make up one third of the course grade, which is significant, but mitigates course failure based on shortcomings of the evaluation method.

### Previous cohorts

The first two cohorts of GOES students (2015/2016) all made gains after participating in the study abroad program, and students who received low scores prior to departure showed the most improvement. Although their placements were varied, all students stayed overseas for a minimum of 12 weeks, and it is thought that the

duration of the program, as well as its practical components, allowed students to immerse themselves into an English-speaking environment which in turn allowed them the opportunity to improve their language skills without specifically studying for the TOEIC exam. From 2017 a small number of students did not receive improved scores in the first TOEIC test given after returning, but it was difficult to determine whether this was due to changes in the program content, changes in duration, individual student ability, or other factors such as fatigue on the test day, etc. While this was somewhat concerning, the number of students in this situation remained very small, and we continued to use the TOEIC test to measure student language improvement. Also from 2017, ELT allowed us to beta-test their new writing/speaking test for free. Unfortunately we were only able to administer it once a year, so comparison in order to determine improvement was not possible.

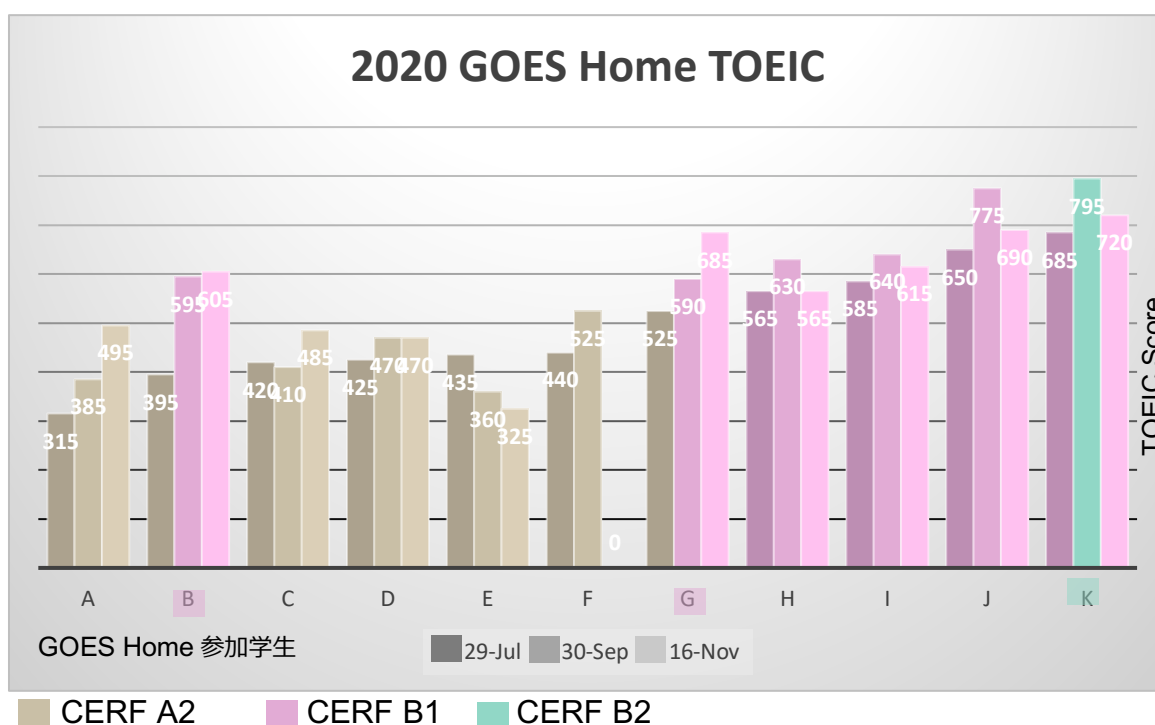
#### 2020 GOES Home cohort

In 2020 we were not able to send students overseas, and they studied English online for five weeks, followed by a week-long English Camp. Participating students were interviewed prior to the start of the program, and most were able to answer the questions asked, but were unable to expand on their responses. Additionally, students took a placement test for class entry at CELT. This placement test was developed by Cambridge, and was scored according to the Common European Frame of Reference (CEFR) where scores are given as A1, A2, B1, B2, C1, C2 from lowest level to highest level, and these correspond to TOEIC under 225, 225 – 545, 550 – 780 respectively. Although the results of the placement tests were not officially shared with KU, some students allowed GDO staff to see their placement scores. Of those seen, there were several A1 and A2 results. One B1 result confirmed when CELT offered to place that student in a higher level class. TOEIC was conducted three times: July 29, prior to the program start, Sept. 30 immediately after the program ended, and November 16, six weeks after the program ended. This third test was conducted in order to learn more about whether students were able to further improve their score, or maintain their level after returning to regular classwork. The third test was optional and one student chose not to participate. The graph below shows test results, and colour coding corresponds to CEFR grades. Three students were able to improve their language skill enough to increase their CEFR level. The student whose score decreased was finally able to raise their score to 500 after a fourth try.

#### Remarks

Nicholson (2015) points out that TOEIC measures receptive language skills rather than productive language skills. This has long been a weakness in using TOEIC to measure student improvement after overseas study, since being immersed in an English environment creates demands on language production that would presumably lead to clear improvement in communicative ability, however it is difficult to objectively test

this. The 2020 cohort did not travel abroad, however the CELT course focuses strongly on improving students' productive ability, as well as their receptive ability. Compared to other years, the TOEIC gain made by students is not observably different. In terms of TOEIC score alone, this suggests that students can improve their TOEIC scores through online learning just as well as by traveling overseas. After completing the online course, students were able to spend a week on campus speaking English exclusively, without relying on Japanese. There was an observable difference in confidence and communicative ability, compared to the pre-program interviews. This further demonstrates that online learning can be effective for language study.



With the exception of one student, students who originally had low TOEIC scores did not show major improvements in their score, and three students achieved lower post-program scores compared to their pre-program scores. Takahashi (2012) suggests that people who score low on the TOEIC test lack the basic English skills necessary to make full use of TOEIC training materials. Thomson (2012) further suggests that due to its standardized format, test takers can achieve high scores due to familiarity with test-taking strategies, rather than language ability. If we combine these assertions, we can see that those with low English ability face a compounded problem of not being able to effectively use the materials that would help them achieve higher scores. While this is speculative, the lowest scorers in the 2020 cohort were able to improve their scores by a good margin six weeks after the program ended. This suggests that while CELT study alone did not directly result in higher TOEIC scores, it may have given students the basic language skills to be able to effectively use TOEIC study materials.



Finally, a comparison between CERF levels and TOEIC scores demonstrates that most students show improvement in TOEIC scoring, yet few are able to reach a higher CERF level. This ability of TOEIC to produce finer-grained data contributes to its value as a tool for evaluating English improvement.

1. Cunningham, Cynthia R. (2002). The TOEIC Test and Communicative Competence: Do Test Score Gains Correlate with Increased Competence? Masters' Dissertation, University of Birmingham, U.K.
2. Nicholson, Simon J. (2015) Evaluating the TOEIC® in South Korea: Practicality, Reliability and Validity. *International Journal of Education*, Vol. 7 no. 1. (221 – 233)
3. Im, Gwan-Hyeok. (2019) Stakeholder Voices: Validity Argument for Score Meaning
4. Takahashi, Junko. (2012) 紀要論文/Departmental Bulletin Paper. Vol. 4 (127 – 138) 多摩大学グローバルスタディーズ学部.

## 11. English Language Support for Global Communication

### English Workshop

Due to the limitations on gatherings due to the COVID pandemic, English workshop was suspended in 2020

### Courses

GDO supported the teaching of two courses in addition to regular GDO business.

#### 1. *Academic English for Science & Engineering Professionals (M1)*

Students worked in pairs or threes to complete a project tracing the origins of their masters' research topic, its current situation, and making predictions about future developments, particularly in relation to the UN SDG's. They also learned how to structure research writing, and to identify their thinking in relation to Bloom's taxonomy.

The pivot to online teaching was compounded by a sudden increase in enrollment from under 20 to over 50 students. By developing hybrid programming where students could access course content on-demand and complete coursework at their own pace, and being able to visit during office hours for personalized tutoring as necessary, once conditions allowed, students were able to complete the course successfully.

#### 2. *English for Engineering II (Mechanical Systems Engineering B4)*

Students in 9 labs collaborated within their lab to produce their own English-language lab-group websites. These websites were run on the free version of Wordpress, were not linked to search engines, and were dismantled after the course ended. On these sites the students wrote about companies related to their research area, and developed a product and business plan for a hypothetical product based on the research activity in their labs.

## Research Support

Due to the sudden cancelation of travel, many international conferences were suspended, or switched to online versions. At the same time, limits on student access to campus resulted in reduced outward-facing research activity, and there was very little demand from students for proofreading or preparation for presentations. One student requested support for TOEFL study, which lasted about 3 months, and two or three other students requested proofreading of papers for publication. Professors also brought work, often on behalf of student co-authors, for proofreading. In total there were approximately 30 such requests averaging 3 per month.

In cases where the work exceeded the remit of this office, GDO introduced professional proofreaders or translators as needed.

## 12. 室員感想文集

### 令和2年度を振り返って

本年度は、ほとんど全ての人が、新型コロナの感染拡大という世界的な大混乱に影響を受けた年でした。そのような中であっても、学生の皆さんの1年はとても貴重で、実りある年にして欲しい。グローバル人材育成支援室での業務を通して、そのお手伝いが少しでもできたことは、とても幸運なことでした。初めて教育機関に所属して、学生の皆さんが真剣に学業に取り組んでいる姿を見るのはとても新鮮で、みるみる英会話力が上がっているの目の当たりにできたことも嬉しかったことの一つです。English Camp では、1日中英語で議論や作業をしました。私の経験からすると、日本人同士で英語で話すことは恥ずかしがる人が多く、発言が少ない授業になるのではないかと心配していましたが、ふたを開けてみると、皆さんが英語で発言や表現することに照れている雰囲気は全くありませんでした。語学学習をしていると、脳の言語スイッチが切り替わる瞬間がありますが、皆さん、まさに英語脳になっていて、英語で考え、英語で表現することが楽しくなっているようでした。

新型コロナにより、現実には海外留学することは難しかった1年でしたが、こうして日本にいても、オンラインでも英語脳になることができると分かったことは、かえってその後の人生の選択肢が増える結果になったと思います。そして、また自由に海外に行くことができる日常に戻ったら、どんどん実際に海外に出かけて欲しい。きっとその時には、英語脳スイッチを簡単に入れることが出来て、さらに充実した海外経験が楽しめるようになっていると確信しています。

最後に、今年度も研修が無事実施できたことは研究科長をはじめ、研究科教員、事務職員の皆様のご協力のおかげと感謝し、引き続きご支援いただけますようお願い申し上げます。

特任専門員 橋 まき

## Reflection on 2020

Although 2020 threw us many new challenges, it also offered ample opportunity to re-evaluate current practices, and brought new potential for flexibility. The ability to operate reflexively in the face of changing situations has always had value, and as the pace of global change quickens, with local activities having wide-reaching repercussions, the capacity to adapt quickly will be increasingly necessary.

The pivot to online learning this year was particularly interesting, and revealed inefficiencies in current higher education practice, particularly with professors duplicating similar lecture content (for example, the sudden world-wide proliferation of video lectures on basic laws of thermodynamics). In terms of GDO activity, this became apparent with the CELT online program. Many of our students lack basic English skills and we have long struggled to patch these gaps while also providing graduate-level education. The deeper thinking required by graduate work depends on the ability to articulate one's ideas, and for this it is necessary to have an intermediate level of fluency. With an intermediate level of English, machine translation becomes a useful learning tool rather than an ineffective crutch, and project-based learning courses held in English can be much more effective in helping students both deepen and broaden their knowledge through access to English-language resources in their field of specialization.

The main work of CELT instructors is to teach English communication. They are highly skilled at this and operate in an environment where the failures of grammar translation method and teach-to-test practices are well known. Their effectiveness is measured by producing students who can use English, rather than by conforming to pre-existing and dated teaching practices and standardized test scores. By collaborating with CELT to develop online programming for our students, we were able to provide graduate-level education while they provided a course which filled the gaps in student English ability. There would certainly be value in exploring how CELT may more widely support undergraduate language learning so that students are better prepared to use English by the time they reach graduate school.

Finally, 2020 has taught us to look again at who we choose to emulate and who we choose to follow. Although English is still firmly rooted as a global lingua franca, its continued dominance is not guaranteed, particularly as machine translation improves. Local knowledge is important, and the ability to access a wide variety of local knowledges will be far more important than the ability to master only one language (beyond our first language). The world's top researchers are multilingual, and multilingualism allows us more lenses to see with. In a world of information, we need to be highly skilled at learning, and skilled at choosing our lenses.

特任助教 Bo Causer, D.Eng.